

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 安芸

ユニット名 ききょう

自己評価実施年月日 平成 20年 1月 15日

記録者氏名 小松 真智

記録年月日 平成 20年 1月 16日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム安芸で生活していく入居者の方が共に過ごす我が家のように暮らしていけることや、地域の中で気軽に寄ってもらえる開かれたホームを目指しての理念を作っている。	○	今後も開かれたホーム作りを目指し、地域参加(地域行事への参加等)を実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室にて見えるところに掲示し、毎朝の申し送り時、又は、ミーティング等にて意識付けて確認している。	○	入職時又は異動での新しい職員にはオリエンテーション時必ず意味を説明し伝えている。今後も継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・入口に掲示すると共に入居時・契約時には説明している。又、見学者や外部の方たちの来訪時にも説明を行っている。	○	ホームだよりの作成(検討中)。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時や外出時には挨拶をし、近所に畑仕事にきている人との会話や楽しみに行っている喫茶店でのなじみの人と話をする等で交流につながっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人との交流する機会として小学校運動会や産業祭・タートルマラソンの見学などに出かけた。	○	地域活動への参加。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	安芸市指定の避難場所となっており、それに伴っての災害時や緊急避難時の地域との協力体制に取り組んでいる。	○	年に1度の防災祭りを開催し、地域住民の方との交流を深めていきたい。事業所としても地域（川北地区）の訓練等にも参加していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び各職員への報告・話し合いをすることで意義を理解し改善につなげるよう努めている。	○	評価を受けることによって指摘を受け、より良いグループホーム作りに向け改善に努めていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容及び取り組みの実施状況・入居者状況についての報告を毎回行い、意見等をいただき、サービス向上に活かしている。	○	意見を聞くことにより運営者・職員、入居者家族に報告しいろいろな意見を聞きながら、サービス向上に向けて今後も継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告や連絡の際は、電話や窓口に出向き話をする機会はある。	○	市町村関係主催の研修会等への参加を今後も継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいるので、職員には話はしているが、十分な理解は得られていないので勉強する機会をつくる。	○	研修会への参加やホーム内での勉強会の開催を検討している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に参加し学び、又、職員会やミーティング時に話をし確認しながら、防止に努めている。	○	研修会等への参加と勉強会（話し合い）の継続。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時から契約の際、常に家族との話をし説明を行なっている、それ以外でも声かけ話しを聞いたりしている。	○	入居後も面会時等に気軽に声をかけ、話す機会をつくり質問などにも対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時や電話連絡の際、意見を求めたり入居者に対しては日々の会話の中で聞ける雰囲気作り、環境づくりに努めている。		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	その都度連絡したり、面会時に知らせている	○	ホーム便りの発行、早急に実施していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し入れ機関の設置、入居時には説明をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内でのミーティングにて意見を出し検討している。	○	日々の業務内でも意見を出しやすい関係作りに継続して努めていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活に合わせて勤務変更などもしながら調整している。	○	入居時の生活や状態にあわせ必要な時間職員を確保した勤務体制作りは今後も調整しながら行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動や替わることは開設以来ないが職員の入れ替わりはあったが現在は落ち着いている。特に入居者へのダメージは見られていない。	○	ユニット間での異動もできるだけ利用者が不安にならないよう対応に努めていく。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等、年間計画が立てられ参加をしている。	○	今後も法人内外の研修への参加は継続していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加している。	○	研修会での交流にて情報交換をしながらサービスの向上に努めていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも相談できる環境であり気軽に声をかけていただいている。旅行や食事会などでストレス軽減につながっている。	○	ストレスの原因などを話の中から聞き助言などをしながら気持ちよく仕事ができる環境づくりに取り組んでいく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な報告にて勤務状況は把握されている。研修会や勉強会の機会があり参加する事で向上心につながっている。	○	自分自身常に向上していく為に研修会や勉強会への参加は重要であることを伝えていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に話しをしたり、来訪の際はなしを伺っている。	○	本人との面接にて思いや希望を聞き、不安なく入居できるようにしていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談後も連絡を入れはなしを聞く機会を持ち、家族様の思いを感じながら対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのときの状況に応じて他のサービス機関の説明や関係機関へ援助を行っている。	○	情報を貰ったりそのときの状況や状態を見極め、適したサービスが受けられるよう今後も継続して行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所して頂き各ユニットの見学をしたりリビング内にて少し話しをしていただくなどの対応で徐々に進めていく。	○	いきなり開始するのではなく家人本人との話し合いにてすすめていくよう努める
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくりとできることを共にしたり話す時間の中で色々な生活の知恵や工夫を学んでいる。	○	昔につくっていた料理を一緒につくってみたり、手芸をしたり、互いに支えあつてのホーム作りを継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への案内・参加をしていただく機会を持つ。又、外出・外泊時では本人が不安になったり戸惑うことがないように話をしながら協力いただいている。	○	本人・家族の思いを十分に聞きできる限り希望に添っての生活ができるよう今後も継続して取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時や電話連絡等にて情報交換しながら良好な関係が保てるように努めている。	○	行事への案内や外出時の同伴でより良い関係作りに務めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、次回も気軽に来ていただけるよう声かけをしている。	○	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう外出の機会には家の近くに出かける等の取り組みを行っている。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格を理解しながら職員が間に入り、娯楽・レクリエーションの時間を多く持ちながら孤立しないようより良い関係作りに努めている。	○	ユニット間での合同の食事会や行事を通して、馴染みの関係作りを今後も継続していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、家族の方から電話があった際には対応をしている。近所であった際には様子伺いなどを行っている。	○	『何かあったらいつでもどうぞ』という声かけをし、フォローしていくことは今後も継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや話の中で本人の思い・希望の把握に努めている。又、困難な場合は家人との相談もしながら検討している。	○	希望や思いは家族に伝えて、検討している。各個別で対応している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人から昔の生活歴や本人からの話などで情報収集している。	○	生活シート等に記録し、職員全員が見れるようにしている。新しい用紙での情報収集については検討中である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々にあったペースで生活ができるよう、できる事を見極めながら支援している。	○	個人の力に応じたことを職員間で話し合い、計画書の作成にて統一したケアを実施している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一方的にならないような多方面からの意見・アイデアで、家族や関係者からの意見を交えながらの計画作成に努めている。	○	モニタリングについてはユニットで話し合っ改善に努めた。計画に沿った記録にしていくための改善に努めた。今後も継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の中で状態把握に努め、変化が見られた際には関係機関とも話し合っ現状に即した計画となるよう努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録を活用しながら職員間の共有を図り、統一したケアの実践及び介護計画の見直しに活かしている。	○	記録様式については、見やすく分かりやすい記録になる様、改善を検討中。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアハウスとの併設となっているので、地域交流ホールや娯楽室を必要に応じて活用している。	○	ケアハウスとの併設となっているので、地域交流ホールや娯楽室を必要に応じて活用している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在消防の方に防災訓練の際、協力いただいている	○	他の機関との協力を考えていかなければならない
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要ときには連絡をとり対応をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等にて現状の歯梨をするなどで現在のところは対応している。	○	必要な場合は十分な対応を図る

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>できるだけ希望する病院に受診できるように努めている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>関係医師との連絡相談のできる態勢は整っている。</p>	<p>○</p> <p>家族様からの相談はいつでも受けすぐに対応できるよう努めていく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホームの看護師はいないが、併設のケアハウスの看護職に相談したり状態をみてもらったり協力していただいている</p>	<p>○</p> <p>入居者の加齢に伴い重症化が考えられる。今後看護師の配置も検討していく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は病院に足を運び状態を知り家族様との連絡、関係者との情報交換にて早期の退院に努めている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時には終末期についての話も行い、意向を聞いている</p>	<p>○</p> <p>ここで最後まで、との家族様からも話が聞かれているので対応できる体制にしていきたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	対応できる態勢作りに向け検討していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いのもとに行うようにし、本人への負担を第一に考えて対応している		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	承諾以外での情報の取り扱いには十分気をつけ、入居者様のへの言葉にも気をつけるようにしている。	○	ミーティング等にてプライバシーの確保ができるような対応の仕方について勉強を定期的に行っていききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の思いへの声かけを考えながらできるだけ自己決定に向けた支援に努めている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を大切にし、希望に添った対応に努めている。	○	『今日はどうしようね?』などの声かけを行い、入居者様の思いを聞き、それに沿っての対応を実施している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの物が着れるよう心がけている。好きな衣類も買い物に出かけ選んで購入している。理容は本人の希望する店に行けるように努めている	○	買い物の同行をして頂き、思いの物を購入する機会をつくっている。(担当者による外出の機会等)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる場面での参加にて準備や食事の片づけを行っている。	○	後片付けは膳にてカウンターまで運んでくるなど、力に応じた対応を実施している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのものを把握しながらいつでも対応できるようにしている	○	買い物に行き、一緒に食べたい物などを買ってくる機会を作って対応している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとりひとりにあった排泄ケアをしている。場所の表示も『トイレ』ではなく『便所』と分かり易く表示している	○	薬にできるだけ頼らず食生活と活動、水分摂取での自然排便につなげている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入れる、いつでも入れることができる。以前の生活に近づけるように午後からの入浴支援をしている。	○	夜間の良眠も得られるように夜間でも入れるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調や状態に合わせての対応を心がけている	○	不穏の方への対応は、傍で話をしたり落ち着くまで付き添っての対応に努めている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみへの思いを聞きながら、気分転換にもつながるよう家族様にも話をして対応している	○	役割を持ったり楽しみごとがあったり本人にとって生きがいとなるような取り組みを、マンネリ化しないように工夫しながら継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小額持たれていたり預っている方も、外出の際には自分で支払いお金を使う機会をもっている。	○	外出の機会には個別財布にて、支払うことをしながら支援している
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前・午後問わず担当職員との外出やその日の出勤職員と出かけるなどしている。	○	天候や体調に配慮しながら外出の機会を多くしている。(本人の希望に沿って行っている)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望別外出も行っており家族との話しながら日頃会話に出てくるところなどに出かけている。	○	ふるさと訪問のような外出も取り入れ、家に帰れない方にも家の前まで行ってみたりと、家族の協力も得ながら実施している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙での支援は少ないがかけられる時は対応している。	○	かけたいと希望の声が聞かれた際には家人の協力も得ながら対応している。手紙を書き、送る機会は今後取組んで行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪があった方にも、再度訪問していただけるよう声かけしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束、鍵をかけないなど拘束については常に声をかけミーティングにて話し合っている。	○	入居者の行動に目をむけ、拘束しないケアを心がけて対応している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はユニット間の行き来も出来るよう、鍵をかけず開放的である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各利用者の日中・夜間を通し、所在や様子を常にスタッフ同士声をかけながら安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状態に応じて必要な物・不必要な物、本人の思いにも考慮しながら、スタッフ・家族にも相談しながら危険防止に努めている。	○	安全性を第一に考えユニットミーティングを定期的に行い、物品のチェックなどもしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全に配慮しながら、居室やホーム内・テラス等、危険性のある物は置かないよう未然に話し合い持ち、事故防止に努めている。備品等設置場所についても定期的にチェックしている。	○	危険性の高い物（洗剤・刃物等）は、夜間、鍵付きの場所に保管する。ホーム内は環境整備を行い、広く安全に過ごせるよう配慮している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアル作成にて職員がすぐに対応できるよう、定期的にミーティングなどで話し合っ確認している。	○	独自の緊急持ち出しファイルを作成し、緊急時には備えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施（年2回） 昨年より、防災祭りにて地震避難訓練の実施（年1回）	○	日常生活の中でも、すぐに避難できるようグループホーム内での訓練も実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化時や往診時主治医との話しや（直接主治医からの説明も行っている）	○	今後も日々の生活の状態についてや主治医との話しについても家族に報告し、話し合いをしながらの支援を続けていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員それぞれの目で常に一人ひとりの状態把握に努め早期発見につなげ、早期の対応をしていく。	○	情報の共有にて異常への早期発見につなげ早急な対応を今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・内容、各入居者の病歴等の把握、服薬時の確認を徹底していく。	○	薬の管理表の作成、内服薬ファイルを作っているでも確認できるようにしている。服薬変更の際は連絡ノートを活用して確認するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握しながら、食事内容の工夫や日中の活動で便秘予防につなげている。	○	薬に頼るのではなく、食事（根菜類や繊維物、水分の摂取を多くして等の工夫をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい・入れ歯の毎日の洗浄への声かけを実施し、定期的に口腔内をチェックしている。	○	定期的にチェックしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った量の把握、同じメニューにならない工夫にて四季折々のものや新鮮な食物を取り入れるなど、習慣性を重視しながら支援している。	○	水分については摂取の少ない人について、食物（ゼリー等）での工夫などで対応している。食事についても代替できる限り工夫して支援している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防については、ミーティングや申し送り等でマニュアルを確認しながら、早急に対応できる体制作りを実施している。	○	マニュアルや資料の作成、講習・勉強会への参加している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、業務終了後まな板包丁などキッチン用品・机などを消毒をし、衛生面に注意している。食材は新鮮な物を使用し、期日の確認をしながら購入し管理に努めている。	○	今後はチェック管理表なども作成し、定期的に確認していく。安全性に気をつけながら取組んでいきたい。
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設のため、玄関（1階）より分かり易く表示したり、装飾等にて明るい雰囲気を取りやすい工夫もしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		○	季節に応じたの雰囲気作りを心かけて取組んでいる。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅に椅子を置き、いつでも話ができるようにしている。	○	椅子の設置にていつでも利用できるようにしている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や家具を使用し、馴染みの物(花・置物)などで落ち着けるよう配慮している。	○	安全性にも気をつけ、本人にとって落ち着ける環境作りは今後も継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の換気は毎日行い、室温等には入居者に合わせての対応を心かけている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広く安全に活動できるように危険な物は排除して環境整備に努めている。	○	本人に合っているかを定期的にチェックしながら、できることへの参加を基本とし、軽作業や家事仕事に取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の力に応じた生活ができるように、見守り、声かけなどすることで未然に防いでいる。	○	個人のできる事に合わせて、時間的にも考慮しながら作業や家事仕事に参加していただいている。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テーブル・椅子等を置くなどしていつでも話をしたり、散歩したり活用できるようにしている。	○	天気の良い日は、レクリエーション・食事会等をしたり、交流の場として活用している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  契約時に家族や本人から聞き取りをしたり、生活をしていく中で話しを聞き意向を掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  リビングなどにて職員と入居者の方が一緒に話しながら毎日過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  一人ひとりのペースを大切にし、それを止めたりすることのような暮らしである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  笑ったり怒ったり喜怒哀楽がみられ、楽しみながらの活気ある生活である。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  希望に沿っての生活ができている。(体調を見て行けないこともあった)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  特に不安な声は聞かれていない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  声かけにて安心して暮らしている。看護師がいないので主治医との連携にて早急な対応を心がけており家族様への連絡もすぐに入れている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  面会時、その他電話連絡等にて聞く機会をつくりはなしをしている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない  ときどき尋ねて来ることがあったり、近所の喫茶店での友人との話しをしたり、そんな中声をかけたりしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  ホームへの理解が少しずつされているように思われる。又、ホームのことも地域の人の中に浸透しつつあるように思われる。
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  特に問題なく働いている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  家族様からよく感謝の声も聞かれている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない  安心して下さっていると感じている。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の生活に合わせた暮らしに近付けての対応を日々実践している。

排泄についても、個人に合った排泄ケアの実践（排泄用品の工夫）を家族と相談の上行っている。それによって金銭的な節減にもつなげている。薬には頼らない食生活の見直し、根菜類や繊維物・水分を多く摂るように工夫したり日中の活動で自然排便につなげている。

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 安芸

ユニット名 りんどう

自己評価実施年月日 平成 20年 1月 15日

記録者氏名 川田 芳江

記録年月日 平成 20年 1月 16日

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>今後も開かれたホーム作りを目指し、地域参加（地域行事への参加等）を実施していく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>入職時又は異動での新しい職員にはオリエンテーション時必ず意味を説明し伝えている。今後も継続していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>ホーム便りの作成（検討中）。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>地域活動への参加</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	安芸市指定の避難場所となっており、それに伴っての災害時や緊急避難時の地域との協力体制に取り組んでいる。	○	年に1度の防災祭りを開催し、地域住民の方との交流を深めていきたい。事業所としても地域(川北地区)の訓練等にも参加していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び各職員への報告・話し合いをすることで意義を理解し改善につなげるよう努めている。	○	評価を受けることによって指摘を受け、より良いグループホーム作りに向け改善に努めていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容及び取り組みの実施状況・入居者状況についての報告を毎回行い、意見等をいただき、サービス向上に活かしている。	○	意見を聞くことにより運営者・職員、入居者家族に報告し、いろいろな意見を聞きながら、サービス向上に向けて今後も継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告や連絡の際は、電話や窓口に出向き話をする機会はある。	○	市町村関係主催の研修会等への参加を今後も継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいるので、職員には話しているが、十分な理解は得られていないので勉強する機会をつくる。	○	研修会への参加やホーム内での勉強会の開催を検討している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に参加し学び、又、職員会やミーティング時に話をし確認しながら、防止に努めている。	○	研修会等への参加と勉強会(話し合い)の継続。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時から契約の際、常に家族との話しをし説明を行っている。それ以外でも声をかけ、話を聞いたりしている	○ 入居後も面会時などに気軽に声をかけ話す機会をつくり、質問などにも対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時や電話連絡の際、意見を求めたり入居者様に対しては日々の会話の中で聞ける雰囲気作り、環境づくりに努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	その都度連絡したり、面会時に知らせている。	○ ホーム便りの発行、早急に実施していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し入れ機関の設置、入居時には説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内でのミーティングにて意見を出し検討している。	○ 日々の業務内でも意見を出しやすい関係作りに継続して努めていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活に合わせて勤務変更などもしながら調整している。	○ 入居者の生活や状態にあわせ必要な時間、職員を確保した勤務体制作りは今後も調整しながら行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動や替わることは開設以来ないが、職員の入れ替わりはあった。現在は落ち着いている、特に入居者へのダメージは見られていない。	○	ユニット間での異動もできるだけ利用者様が不安にならないような対応に努めていく。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等、年間計画がたてられ参加をしている	○	今後も法人内外の研修への参加は継続していく
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会に参加している	○	研修会での交流にて情報交換をしながらサービスの向上に努めていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも相談できる環境であり、気軽に声を掛けていただいている。旅行や食事会などでストレス軽減につながっている。	○	ストレスの原因などを話の中から聞き、助言などをしながら気持ちよく仕事ができる環境づくりに取り組んでいく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な報告にて勤務状態は把握されている。又、研修会や勉強会の機会があり参加する事で向上心につながっている。	○	自分自身常に向上していく為に研修会や勉強会への参加は重要であることを伝えていく。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に話しをしたり、来訪の際話しを伺っている。	○ 本人との面接にて思いや希望を聞き、不安なく入居できるようにしていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談後も連絡を入れ、話しを聞く機会を持ち、家族様の思いを感じながら対応している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのときの状況に応じて他のサービス機関の説明や関係機関へ援助を行っている。	○ 情報を貰ったりそのときの状況や状態を見極め、適したサービスが受けられるよう今後も継続して行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所して頂き各ユニットの見学をしたりリビング内にて少し話しをしていただくなどの対応で徐々に進めていく。	○ いきなり開始するのではなく家人本人との話し合いにてすすめていくよう努める
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同の場であるリビングでほとんどの利用者様が集まっている為、一緒に過ごしている。作業や家事を共に行っている。	○ 昔につくっていた料理を一緒につくってみたり、手芸をしたり、互いに支えあつてのホーム作りを継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への案内・参加をしていただく機械を持つ。又家族様の面会時には面会時には近況を報告すると共に、本人とも密接に接していき信頼関係が気づけるように心がけている。	○	本人様・家族様の思いを十分に聞き、できる限り希望に添っての生活ができるよう今後も継続して取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様の面会時には情報交換を行うなどして良い関係が築いていけるようにしている。	○	行事への案内や外出時の同伴でより良い関係作りに努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、また来ていただけるように声をかけている。	○	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう外出の機会には家の近くに出かける等の取り組みを行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	主にリビングで過ごされているため、それぞれの個性を大切にしながら関わっている。娯楽・レクリエーションの時間をとりながら良い関係作りの努めている。	○	ユニット間での合同の食事会や行事を通して、馴染みの関係作りを今後も継続していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、家族様から電話などがあれば対応を行っている。	○	『何かあったらいつでもどうぞ』という声かけをし、フォローしていくことは今後も継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を送りながら会話を行っていく中で、本人の思いや希望などを把握できるようにしている。	○	希望や思いは家族に伝えて、検討している。各個別で対応している。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から昔の生活歴などを契約時等に聞くようにしている。又、入居中に本人や家族から聞きだせるようにしている。	○	生活シート等に記録し、職員全員が見れるようにしている。新しい用紙での情報収集については検討中である。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりにあった生活が出来るよう出切る事、出来ない事を見極めを行い対応できるようにしている。	○	個人の力に応じたことを職員間で話し合い、計画書の作成にて統一したケアを実施している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの希望や、本人の生活を良くするための介護サービス計画書を作成するように努めている。	○	アセスメントの摂り方については、ユニットで話し合って改善に努めた。
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で状態把握に努め、状況に応じて見直しを行うと共に期間に応じた計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録を活用しながら職員間の共有を図り、統一したケアの実践及び介護計画の見直しに活かしている。	○	記録様式については、見やすく分かりやすい記録になる様、改善を検討中。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアハウスとの併設となっているので、地域交流ホールや娯楽室を必要に応じて活用している。	○	ケアハウスとの併設となっているので、地域交流ホールや娯楽室を必要に応じて活用している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在消防の方に防災訓練の際、協力いただいている	○	他の機関との協力を考えていかなければならない
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要なときには連絡をとり対応をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等にて現状の話しをするなどで現在のところは対応している。	○	必要な場合は十分な対応を図る

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	家族様からの相談はいつでも受け、すぐに対応できるように努めていく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	入居者様の加齢に伴い重症化も考えられる為、今後看護師の配置も検討していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ここで最後まで、どの家族様からも話もきかれていたので対応できる体制にしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	対応できる体制作りに向け検討していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様に負担がかからないように関係者間での情報交換を行うようにしている。ホーム内での居室替えの際にはできるだけ同じ配置にできるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については契約時に承諾を得ているが取り扱いについては十分注意をしている。声かけ等も職員一人ひとりが十分気をつけている	○	ミーティング等にてプライバシーの確保ができるような対応の仕方について勉強を定期的に行っていききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホーム内で何か行うときは、利用者と一緒に行為希望など聴ける場面が多い		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや希望が聞け、それぞれのペースに合わせた生活が送れているのではないかとと思われる		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	どの利用者様も髪型には気をつけており散髪は小まめに出来ている。衣類は職員と一緒に決めたり自己決定していただいている。	○	利用者様の好みを聞き出して希望がかなうようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	排泄ケアの勉強会など学習の機会があれば、積極的に参加していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	どこかに出かけたなどの希望が聞かれた際にはできるだけ叶えられるように、気分転換が図れ楽しく過ごせるように支援していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方が金銭の自己管理をしている、他の方については使う場面で持っていただけるようにしている。回数は少ないが、お金を使う機会を提供している。	○	お金を使う機会をつくるのが不十分であるため外出の機会を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの方の希望を聞き戸外への外出を時々実施できている。家族様が来られ外出をされるケースもある。	○	服が欲しい・○○に行きたいなどの希望が聞かれた際には、叶えるような態勢をとっていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出中に希望を言って下さり、すぐに対応をして喜んでくださったケースもある。消極的な方が多い中、外出中という開放感で話が弾み希望が聞かれた。	○	今後も一緒に楽しめる外出支援を行ってきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の対応ができるようにしてる。2名の利用者は自分の居室に電話を取り付けている。	○	今後は手紙を書く機会を作れるようにしてみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際には居室やリビング、思い思いに過ごせていただけるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティングで話し合い知識を深め正しく理解している。	○	勉強会などの機会があれば参加し知識を深める




項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○	安全性を第一に考えユニットミーティングを定期的に行い、物品のチェックなどもしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	危険性の高い物（洗剤・刃物等）は、夜間、鍵付きの場所に保管する。ホーム内は環境整備を行い、広く安全に過ごせるように配慮している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○	独自の緊急持ち出しファイルを作成し、緊急時には備えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	日常生活の中でも、すぐに避難できるようグループホーム内での訓練も実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化時や往診時主治医との話や（直接主治医からの説明も行っている）	○	今後も日々の生活の状態についてや主治医との話しについても家族に報告し、話し合いをしながらの支援を続けていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に排泄状況、本人からの訴え・表情・様子を見ながら異変の発見が早期にできるようにしている。	○	情報の共有にて異常への早期発見につなげ早急な対応を今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・内容、書く入居者の病歴等の把握、服薬時の確認を徹底していく。	○	薬の管理表の作成、内服薬ファイルを作っいつでも確認できるようにしてる。服薬変更の際は連絡ノートを活用して確認するようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握しながら食事内容の工夫や日中の活動で便秘予防につなげている。それでも排便がない場合には石の指示の下、下剤の調整を行っている。	○	薬に頼るのではなく、食事（根菜類や繊維物、水分の摂取を多くするなど）の工夫をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施できるように声かけや介助を行っている。定期的に口腔内のチェックをしている。	○	定期的にチェックしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合った食事量の把握、同じメニューにならないように工夫している。四季折々の食材や新鮮な物を取り入れるようにしている。習慣性を重視しながら支援している。	○	水分について、お茶を食事時摂れなかった場合には代替に好みの飲み物が飲めるように種類を増やし選択してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防についてはミーティングや申し送り等でマニュアルを確認しながら早急に対応できる体制作りを実施している。	○	マニュアルや資料の作成、講習・勉強会への参加している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン用品や机など消毒を毎日行っている。食材は新鮮な物を使用し、期日の確認をしながら購入し管理に努めている。		今後はチェック管理表なども作成し、定期的に確認していく。安全性に気をつけながら取り組んでいきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設のため、玄関（1階）より分かり易く表示したり、装飾等にて明るい雰囲気を取りやすい工夫もしている。	○	ケアハウス事務所にも協力して頂き、訪問者が来られた際にはすぐに対応できるようにしている。又厳寒チャイムの音にもすぐに反応し、来客者に挨拶でき、安心して出入できるように、これからも取り組んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持に努め、季節の花を生けたり時期にあった掲示物を作っている。不快な音をさせないように気を配っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや畳の間があり、思い思いに過ごせるように配置できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や家具を使用し、馴染みの物（花・置物）などで落ち着けるよう配慮している。	○	安全性にも気をつけ、本人にとって落ち着ける環境づくりは今後も継続していく。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の換気は毎日行い、室温等には入居者に合わせての対応を心がけている。	○	
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広く安全に活動できるように危険な物は排除して環境整備に努めている。	○	本人に合っているを定期的にチェックしながら、できることへの参加を基本とし、軽作業や家事仕事に取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の力に応じた生活ができるように、見守り、声かけなどすることで未然に防いでいる。	○	個人のできる事に合わせて、時間的にも考慮しながら作業や家事仕事に参加していただいている。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テーブル・椅子等を置くなどしていつでも話をしたり、散歩したり活用できるようにしている。	○	天気の良い日は、レクリエーション・食事会等をしたり、交流の場として活用している

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  契約時に家族から利用者本人の生活背景を聞いたりホームでの生活を送るうえで、本人より聞き出すことで掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  職員と利用者様が共にお茶を飲みながら談話をしながら休んだりする場面が毎日見られる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  一人ひとりが自由に自分のペースで生活を送ることが出来ている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  一人ひとりの利用者と職員が関わりを持ち、安心して過ごしていただけている。十分だと感じない利用者も中には居りこれからも努力が必要。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  『買い物に行きたい』『散歩に行きたい』などの希望があれば可能な限りできるだけ希望が叶えられるように対応しているが、まだ十分とは言えない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  看護師がいらないため不安に思われる方が中に居られる体調不良時にはかかりつけ医にすぐに相談し状態に応じた対応を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  利用者の状態、要望に応じた対応をその都度行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  面会時や電話対応時に要望等を聞くようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ○ ④ほとんどない  地域とのかかわりが十分とはいえない。今後の課題として取り組んでいきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

ほとんどの方が満足して安心して下さっている。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の生活に合わせた暮らしに近づけての対応を日々実践している。  
排泄についても、個人に合った排泄ケアの実施（排泄用品の工夫）を家族と相談の上行っている。それによって金銭的な節減にもつなげている。薬には頼らない食生活の見直し、根菜類や繊維物・水分を多く摂るように工夫したり日中の活動で自然排便につなげている。